

図画工作科学学習指導案

竹原市立忠海西小学校 山内 美穂

1 学年 第2学年 計35名

2 題材名 「海からのプレゼント」

3 題材について

- 忠海西小学校は、運動場のすぐ前に宮床(みやとこ)海岸が広がり、横には城山(じょうやま)があるという自然に恵まれた環境の中に位置している。児童は毎年、地域の方とともに、学校行事で宮床海岸の清掃を行ったり、生活科の学習で城山に木の実を取りに行ったりして、自然に親しむ活動をしている。

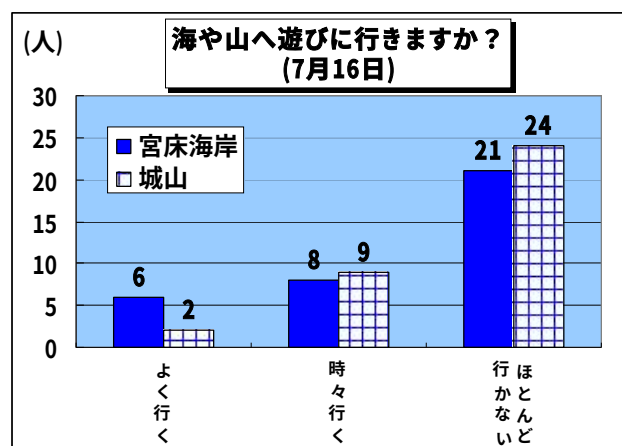
本題材では、このような立地条件を生かし、地域の自然物を活用して楽しく造形遊びをしたり、飾りを作ったりしていく。海岸や山に行き、児童が自分で貝殻や流木、小石、木の実、小枝などの自然物を集めて遊ぶことで、自然物の造形のおもしろさを感じ取ることができる。また、自然物は色や形が様々なので、イメージをふくらませやすく、二つとない自分だけの飾りを作ることができる題材である。

- 本学級の児童は素直で、何事にもねばり強く取り組み、最後までやりきることができる。図画工作の時間が好きで、どの内容の学習も楽しそうに活動している。

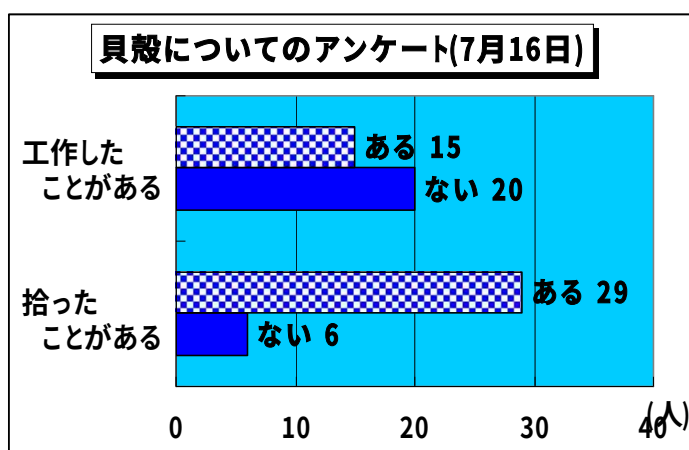
技能面については、はさみを使ったり、のりやテープで接着したりするなど、創造的な技能の基礎が身に付いている。また、「紙コップと折り紙の接着は、のりがよい。」「紙コップとストローの接着は、テープがよい。」というように、材料に合わせて接着剤を選ぶこともできる。5月に学習した「へんしんかみコップ」では、輪ゴムをつけた紙コップの動きから作りたい形を考え、材料の加工を工夫して自分の発想に近づけようとする姿が見られた。また、7月に学習した「ペットボトルのへんしん」では、各自が材料を意欲的に集め、水に浮くものを数多く作っている。できあがった船をプールで浮かべたり、「浮き」にして泳いだりして、作って遊ぶ楽しさも味わうことができた。

一方、発想や構想の能力については、自分の思いをふくらませることができず、友達の作品と同じようなものを作ろうとする傾向がある。また、アイデアはもっていても、ほかの人と違うということに抵抗をもつ児童がおり、自分らしさを表現できない実態がある。4月の学習「ゆめをつなげて」では、グループで協力して、大きな紙に想像の世界を広げていく活動を行い、自由に表現する楽しさを味わわせるよう心がけた。

本題材で扱う自然物および採集場所である海岸や山に対する児童の関心度の実態調査の結果は次のとおりである。



宮床海岸および城山ともに、日常的に親しんでいる児童は少ないことが分かる。これは、海が子どもだけで行ってはいけない危険な場所であることや、外遊びをする児童の遊び場所が、公園や家の前、小学校の運動場というように安全な場所になっている傾向があることと関係していると考えられる。



貝殻についての児童の経験は、拾ったことはあるが、それを利用して何かを作ったり、遊んだりした経験は少ない。工作をしたことがある児童の多くは、幼稚園で紙粘土の作品に貝殻を飾りつける活動をあげていた。

○ 指導にあたっては、海岸での遊びの経験が少ない児童が多いので、まず海岸に行って、貝殻などを拾いながら砂浜で、楽しく遊ぶ活動を行う。ここ

では、自然物とのふれあいの時間をたっぷりと確保していきたい。

貝殻を材料に工作をしたことがない児童が半数以上いることもあり、何を作ってよいかアイデアが浮かばない児童がいると思われる。そこで、自由にものづくりをする前に、全員で見立て遊びをして、イメージをふくらませやすくする。また、参考作品をこちらで準備しておき、それを児童に提示することで、どの児童も「私もつくってみたいな。」という思いをもてるようにしたい。

また、接着の作業や道具の使い方については、全体指導だけでなく、個別に指導したり、補助したりしていくようにする。

4 題材の目標

- 学校の近くにある海岸や山などの、貝殻、流木、小石、木の実、木の枝など自然物の形や色などに関心をもち、イメージをふくらませるとともに、材料の組み合わせを考えながら、ならべる、積む、重ねるなど造形活動の楽しさを味わう。
- 形や色から自分のイメージをふくらませ、作り方を工夫して表す。
- 自然の材料の美しさを味わい、友達の作品のよさや工夫を見つけることができる。

5 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
○材料を進んで見つけようとしている。 ○自然物の形の特徴を見つけたり、美しさを感じながら造形活動を楽しもうとしている。	○材料の組み合わせや飾り方を考えている。 ○自然物をもとに、自分なりのイメージをふくらませる。	○つなぐ、結ぶ、はるなど、作り方を工夫して表す。 ○接着剤やその他の材料を適切に使い、自分の作りたい形に表す。	○自然物の形や色の美しさを味わっている。 ○友達のつくったものを楽しく見て、感じたことを話す。

6 指導と評価の計画 (全 4 時間)

小単元	学習内容	評価					評価方法
		関	発	創	鑑	評価規準	
海と なか よし (1)	○宮床海岸で貝殻や小石などを集める。形見つけをしたり、ならべて遊んだりする。 ・きれいな貝を見つけたよ。 ・珍しい形だね。 ・～みたいだよ。 ・つるつるして気持ちいい。	◎			○	ア 進んで材料を探したり、集めたりしようとしている。 エ 見つけた材料の形や色の美しさを味わっている。	・行動観察
海から の プ レ ゼ ン ト (2)	○集めてきた材料を並べて接着したり、組み合わせて接着したりして、自分のイメージした形を仕上げる。 ・ゆれるかざり ・いきもの ・平面的なかざり etc. (本時)		◎	○		イ 材料を選んだり、並べたり、組み合わせたりをしながら、自分の思いをふくらませる。 ウ くっつける、はるなど作り方を工夫して思いのままに表す。	・行動観察 ・作品
鑑 賞 し よ う (1)	○作品を鑑賞し合い、お互いの作品のよさや、工夫を見つけ合う。				◎	エ 自分や友達の作品のよさやおもしろさを見つけ、感じたことを話す。	・発表 ・記述内容

7 本時の展開

(1)本時の目標

○宮床海岸で集めた自然物の色や形から自分のイメージをふくらませ、並べたり組み合わせたりをしながら思いを広げ、作り方を工夫して思いのままに作品を作ることができる。

(2)観点別評価規準

- 材料を選んだり、並べたり、組み合わせたりをしながら、自分の思いをふくらませる。(発想や構想の能力)
- くっつける、はるなど作り方を工夫して思いのままに表す。(創造的な技能)

(3)準備物

(教師)針金、ひも、木工用ボンド、ホットボンド、いとのこ、枝切りばさみ、貝殻などの自然物、釣り糸、不透明マジック
(児童)貝殻などの自然物

(4)学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
○貝殻や流木を使って、おうちの人へプレゼントを作ることを知る。	○集めたものを見せ合う中で、きれいな物やおもしろい物、珍しい物を見つけさせる。 ○材料を組み合わせて、見立て遊びをさせることで、作品作りへの意欲をわかせる。		
○どんなものを作りたいかイメージをふくらませ、大まかな見通しをもつ。	○つるすとよいもの、重ねるとよいもの、並べるとよいものなど、材料の色や形の特徴を考えて、作り方を工夫するように助言する。 ○参考作品を提示する。	イ 材料を選んだり、並べたり、組み合わせたりしながら、自分の思いをふくらませる。	○行動観察
○道具の使い方、接着剤の使い方を確認し合う。	○貝殻は接着が難しいので、接着剤の使い方を紹介し、確実にとめられるようにする。		
○作品を完成させる。	○自然の色や形をそのままの状態を生かす様に助言する。 ○穴をあけたり、針金を切ったりなどの危険な作業は補助する。	ウ くっつける、はるなど作り方を工夫して思いのままに表す。	○行動観察 ○作品
○後片付けをする。	○針金や枝切りばさみのような危険なものは取り扱いに気をつけるように注意する。 ○進んで後片付けをしている児童をほめる。		